



通巻 136号
安曇野市豊科郷土博物館友の会
令和8年2月14日発行



「つながる 広がる ワクワクの地平線」

友の会副会長 加藏 友美

友の会郷土史部は夏と冬は古文書講座、春と秋は街歩きをしています。安曇野市内の一地区を、原館長と文化課の逸見さんが作成してくださった詳細な地図と資料を手にしながら、神社やお寺、道祖神、石造物などを巡ります。普段すぐ近くを車で通っている場所でも、新たな発見が毎回あります。

歩いてみると、少しの勾配や高低差にも気づくことができます。郷土史部で歩くようになってから、堰や水路に注意が向くようになりました。集落のお堂に守られた観音様や、道端にある道祖神、馬頭観音像など、昔の人がどんな願いを込めて造り、今日まで大切に守られてきたのかを想うと、今ここにある有難さに手を合わせたくくなります。

さて、奈良国立博物館で仏像の装いに関する講座を聴く機会がありました。あるお寺の月光菩薩に着けられた珍しい形の胸飾り（ネックレス）に着目し、同じデザインを探したのですが、なかなか見つけることができず、唯一、西安で出土した7世紀当時のネックレスが似たデザインの例として紹介されました。また、唐草文様を用いた同様のデザインはインドまで遡っても見あたらなかったそうです。奈良博といえば正倉院展で知られていますが、地元奈良の仏像を起点に、探索の方向がシルクロードへと広がっていく展開にワクワクしました。奈良博の연구원さんは、近くのお寺で仏像を見る際には、ぜひネックレスに注目してください、と締めくくりました。

大人でも子どもでも、ふと湧き上がった疑問がきっかけとなり、「面白い」「知りたい」「調べたい」とワクワクが広がっていく瞬間があると思います。その瞬間を起点とするなら、起点は身近な足元にあることに気が付きます。一方で、広範囲に分布しているほど面白いとも思います。様々な場所から色々な方向に、時には双方向のやり取りが始まったりしながら、ワクワクの地平線は広がっていきます。郷土博物館と友の会の活動は、つながりを生み出す大切な起点のように感じています。



【吉野でのワクワクな出会い】

「友の会への提案 ～新たなる挑戦を～」

博物館学芸員 窪田尚幸

<提案>

- ①子ども向けの講座・ギャラリートーク
絵手紙教室・植物画教室・写真教室・戦時生活講座
*友の会展時に合わせて実施してはどうか
- ②タカラさがし部と他の部とのコラボ企画
例:郷土史部とタカラさがし部一緒の街探検
タカラさがし部との〇〇教室

皆さんは、各部の活動を自分たちの楽しみとして、充実した取り組みをしてくださっています。そこで、その取り組みを“博物館の文化”として是非、子どもたちに体験を通して伝えて行ってほしいと思っています。友の会、今の自分たちが持っているタカラを子どもたちにも伝え、ともに楽しむ活動を是非取り入れてほしいのです。

『子ども世代・親世代・祖父母世代・・・が
博物館友の会の活動を通じてつながる』

そんな博物館はきっと今まで以上に生き生きとした博物館になるし、市民みんなで創り上げていく博物館になっていくと思うのです。そんな可能性



【子どもたちと対話する絵手紙部員】

を私が参加しているタカラさがし部の活動(子どもと親とスタッフでの街歩きやものづくり等の体験活動)や「戦時生活・絵手紙展での子どもたちへのギャラリートーク」を見ていて、強く感じるのです。また、前回の戦時生活展で展示された戦時中の遊び道具「撃墜競技」を新たに作製してみました。おはじきのように敵機を撃墜するゲームです。この遊びをきっかけに子どもは勿論、大人も「戦争と平和」について考えることができます。友の会の活動と博物館の活動がまさに響き合う事例となりました。

各部でこの提案・挑戦を是非、ご検討ください。//



【展示された戦時中のゲーム】



【来館者が遊べるように作製したゲーム】

令和7年度春季企画展が始まります！

土の中からの贈り物！ ～ここ掘れワンワン～

令和8年2月21日（土）～5月6日（水・祝）



【サメの歯の化石】



【埋納銭】

<関連イベント>

◎ワークショップ「石を割って化石を見つけよう！」

- ・日時：3月22日（日）10:00～12:00
- ・講師：埴 東子（松本市四賀化石館学芸員）
- ・場所：博物館2階学習室
- ・定員：親子10組（先着順）
- ・費用：100円（1組の参加費）
- ・申込：3月12日（木）から博物館へ電話で

◎土の中からの贈り物 鑑定会Ⅰ「石や化石」

- ・日時：4月18日（土）①10:00～12:00
②13:00～14:00
- ・鑑定人：埴 東子（松本市四賀化石館学芸員）
松田 幸子（市職員）
- ・対象：小中学生 ・持ち物：石や化石
- ・場所：博物館2階学習室
- ・費用：無料 ・申込：不要

◎土の中からの贈り物 鑑定会Ⅱ「土器や石器や茶碗」

- ・日時：4月25日（土）①10:00～12:00
②13:00～14:00
- ・鑑定人：原明芳（館長）、土屋和章（文化課職員）
- ・対象：小中学生 ・持ち物：土器や石器や茶碗
- ・場所：博物館2階学習室
- ・費用：無料 ・申込：不要

友の会活動

友の会展覧会

1月10日(土)～2月1日(日)

第71回新春書芸展

初春を祝う真心こもった書と個性あふれる作品29点が出品されました。1月15日(木)にはギャラリートークも行われ、千野秀濤さんのお話を皆さん真剣に聞いておられました。昨年度から博物館の特別展と同時開催になり、入館者にも両方楽しめるかと好評でした。



冬季特別展 「一体、これは何だろう? 昔の珍道具展」

見ただけでは、その用途がよくわからない不思議な昔の道具7点。大正から昭和に製造・販売された生活道具。ゼンマイ式自動蠅獲器、コーンシェラー(トウモロコシ脱粒機)、カゴメマジックホームウォッシャー(カプセル型洗濯機)、ランビキ(蒸留器)が展示され、皆さん興味津々で見学されていました。



今後の友の会展覧会予定

5月30日(土)～6月21日(日)

第40回写真展

一瞬の表情をとらえたフォト。どんな瞬間が展示されるのか、今から楽しみです!

第21回ボタニカルアート展

植物学的に、特徴などを正確に、しかも美しく魅力的に描かれた『植物学的な芸術』を友の会会員の皆さんもお楽しみください。

戦時生活部 「展覧会記録冊子を作る」

部員 山口 良夫

「そりゃいい、やって」と戦時生活部会の展覧会の記録冊子化に応えてくれた太田市長が急逝され、半月後この冊子を完成することができました。今年の展覧会に向けた戦時生活部の活動を振り返ると、「あわただしい一年」でありました。2024年12月の例会で、市制20周年、戦後80年となる2025年展覧会を、市民とともに安曇の戦争を考えることをテーマに決めました。2025年4月市内全戸に「戦時生活アンケート」を配布、5月に回収しすぐに情報の整理とさらなる情報収集を行いました。6月には提供情報数が約70件となり、その1件をA2用紙2枚にまとめて発表することになりました。例年2～5件くらいのテーマで発表してきましたが、今年は一挙に70件となったのです。11月8日～30日の展覧会及び3回の「お話を聞く会」には延べ600人以上の観覧者が来場して例年に増して、盛況でありました。来館者の中には2度3度と来られる方や、1時間2時間と見ていかれる方もあり、さながら資料の中の、父や母、叔父や叔母そして自分に、会いに来ているようでありました。多くの人々に見ていただいた成果を、今後も大切にしていきたいと思えます。

絵手紙部 「一枚の絵てがみ」

部員 清野 陽子

安曇野の冬の青空に、そびえる雪の常念岳を仰ぎ手を合わせ日々の幸せに感謝しています。絵てがみ教室に通い早五年が過ぎました。絵てがみは私の唯一至福の習い事ですが、最近は主人の介護もあり休みがちになりました。そんな時も高橋先生は、「次は〇〇をやります。持ち物は〇〇です。」と応援の声かけをずっとして下さいました。又教室での先生は「大きくゆっくり思うように描きなさい。」がご指導の基本で、色の混ぜ具合は筆をとって導いて私の描く力を支え続けてくれました。亡小池邦夫先生のご精神そのものです。本来、絵てがみは友人知人に届けて見て読んでいただくものですが、私は手放すのが淋しくて自分のファイルに貯め込んで唯一の宝物として楽しんでます。これからも教室の明るく楽しいお仲間と高橋先生のご指導のもと、一枚の絵てがみに心を込めて描き続け、自分磨きの教室に通いたいと思えます。



【令和四年 絵手紙 陽子】

令和8年度 博物館企画展の予定

- ◆令和8年度 夏季企画展 「戦前の観光信州 ーそのとき、安曇野は!ー」
- ◆令和8年度 春季企画展 「コメって何だろう?」(仮)

今年度の友の会活動へのご協力、どうもありがとうございました。来年度も引き続き、ご入会を希望される方は改めて会費をお納めください。令和8年度の会員証を発行いたします。タカラさがし部については、4月に小学校を通じて募集のお知らせをします。

友の会会報は博物館のホームページで、カラーで見ることができます。是非ご覧ください。